

普及活動情勢報告（令和2年7月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

本格的な出荷に向けて ～津野山ミョウガ部会目慣らし会～



目慣らし会で出荷規格の確認

6月30日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターでミョウガ目慣らし会が開催され、生産者16戸が参加しました。

当課からは、毎月実施している生育調査結果の中間報告、ミョウガ根茎腐敗病菌の他品目への寄生性、GAP点検シートの3点について説明を行いました。

生産者は、生育調査結果の葉幅と収量との関係に関心を持っていた様子でした。

当課は、生産力向上に向け、今後も生育調査や現地検討会など部会活動への支援を行っていきます。

シシトウの土壌状態と根の張り方を確認 ～土壌の断面・堀撮り調査を実施～



土壌の断面状況

7月1日・2日に管内の促成シシトウ農家2戸の圃場で、土壌の断面調査と根の掘り取り調査を行いました。

これは、生育調査を行っているシシトウ農家から今作の生育や収穫量についての相談があり、栽培終了時の状態を確認することになったものです。

調査後、農家からは「このような調査は行ったことがなく、初めて土壌の状態を見た。」、「根の張り方がわかった。今作の収穫量の取れ方にも影響していると思う。」との意見があり、「次作も引き続き行って欲しい。」との要望もいただいています。

当課は、この調査結果をとりまとめ、講習会などで報告を行うとともに、今後も引き続き、収穫量の増加に向け、支援を行います。

集落営農の取り組みについて理解を深めるために ～津野町集落営農塾の開催～



集落営農について説明

6月30日から7月3日にかけて、津野町で開催された中山間地域等直接支払制度及び多面的機能支払制度の説明会において、集落営農塾【組織化編】を開催し、60名の参加がありました。

当課からは、集落営農への取組の必要性を説明し、県内山間部の集落営農組織の取組事例をDVDで紹介しました。一部の参加者は、機械の共同利用に興味を示していました。

興味を示した集落へは、今後、代表者の話を聞きながら関係機関とともに必要な支援を行っていきます。

高温期の栽培管理を周知 ～甘とう目慣らし会・現地検討会を開催～



要点を集約して報告中

J A高知県高西地区津野山営農経済センターの土佐甘とう部会では、7月1日に、規格の統一と高温期の栽培管理の周知を目的に、目慣らし会と現地検討会を開催し、14名の農家が参加しました。

当課からは、現地検討会で篤農家のかん水事例紹介や天候に応じたかん水事例の提案、尻腐れ・焼け果対策、病害対策を周知しました。農家からは「接木の管理は実生と比べどうか」や「尻腐れと焼け果の発生割合を教えてください」等の質問があり、その他天敵活用方法やこれまでの管理について等、活発な栽培管理の議論がなされました。

当課は、今後も部会や巡回・生育調査を通じて土佐甘とう部会を支援していきます

環境データを元にした栽培管理を目指して ～ニラの生育調査～



生育調査の様子

県内の施設園芸では環境測定装置を導入する生産者が増加していますが、管内のニラにおいては環境測定装置を導入している農家が3戸と非常に少なく、環境データを元にした栽培管理が確立されていません。

そこで栽培管理モデルの作成を目的に、令和3園芸年度から環境測定装置導入生産者3戸を対象に環境データの収集および生育調査を実施することとし、6月23日から調査を開始しました。

今後はJ A営農指導員と2週間に1回生育調査を実施し、収量アップに繋がる栽培管理モデル作成のためのデータ取りを継続して行います。

よさ恋バナナの販路拡大を支援していきます ～6次産業化支援チーム会～



チーム会の様子

須崎市浦ノ内で栽培している「よさ恋バナナ」の販路拡大を支援するため、6月25日にアドバイザーを招へいし、6次産業化支援チーム会を開催しました。

アドバイザーからは、高級な果物が商品として売りにくい状況ではあるが、バナナジュースの原料となる冷凍での販売や、のぼり等を作成し、地元での認知度の向上を図ること等について助言をいただきました。

当課では、チーム会の開催等により、引き続き「よさ恋バナナ」の販路拡大を支援していきます。